



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 39

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 39. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1955, 39: 31-34

ISSUE DATE:

1955-12-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186836>

RIGHT:

録 事

本會援助の伊予灘海洋資源調査は布施委員指揮の下に本月上旬実施された。調査員は布施慎一郎(臨海実験所委員)、奥野良之助(京大大学院学生)、原田英司(京大大学院学生)、左海昭三(水族館職員)、木曾亮(内水研増殖課技官)の5名で、使用船舶は内水研の内海丸(40t)であつた。一行は11月1日宇品港を出発、悪天候と物ともせず伊予灘の60地点で水質観測、底棲及浮游生物採集をなし、5日間の風待ちを含め、15日無事宇品に帰港した。

調査に参加した左海館員は17日、布施委員及び原田君は25日帰所した。

左海館員の留学中臨時雇1名を水族館に傭入れた。

3日文化の日の窓口売上金¥7,155は、恒例により今回は白浜第一小学校講堂建築資金の一部として寄附された。

先月実験所前にできた乙姫プールと南海岸に発着する遊覧船グラスボートより発する無遠慮な騒音にたまりかね、双方へ自肅を申し入れた。

高田氏三次委員は今月京大理学部事務室を去られ、會計課總務掛長として本部事務局へ移られることになった。

時岡隆委員は米國カリフォルニア大学スクリップス海洋研究所へ、Post-doctoral fellowとして約1年間留学されることに内定。目下渡航準備に忙殺されているが、来年1月早々出発の予定である。

# 業 務 概 況

## ③ 11月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	6583	51154	12611	99705	19194	150859
小 人	260	4140	110	2306	370	6446
団 体	15809	75259	—	—	15809	75259
合 計	22652	130553	12721	102011	35373	232564
無 入場者					18	1417

## ④ 11月の事業収入

(累 計)

観覧券売上金	614860	4,202,237
魚類掛下	—	5,620
諸 収 入	20	870
10月1日の繰越	753331	

計 1,368,211

## ⑤ 11月の支出

### 水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	53,476	465,333	
今 月 計	—	440	
備 品 費	120	149,410	
消 耗 費	10,470	72,259	
事 業 費	42,582	325,215	
維 持 費	6,280	137,095	
其 他 諸 経 費	9,245	198,024	
積 立 金	104,507	716,619	
合 計	226,680	2,064,395	

### 実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	30,000	93,000	時間不能委員
協 定 金	5,000	25,000	
備 品 費	5,190	63,160	
消 耗 費	—	14,500	
刊 行 費	—	329,576	
役 務 費	—	77,610	
合 計	40,190	602,846	

## 博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	4,600	36,760	
消耗費	—	7,393	
備品費	—	12,320	
合 計	4,600	58,473	

## 臨時部

項 目	金 額	累 計	備 考
臨時労働者旅費補助	50,000	50,000	
合 計	50,000	518,705	

## 支出合計

		(累 計)
水族館経費	226,680	2,064,395
実験所経費	40,190	602,846
博物館経費	4,600	58,473
臨時部	50,000	518,705
計	321,470	3,244,419

11月末現在高..... 1,046,741

支出累計..... 3,244,419

## ◎前年度との比較

	1954	1955	増 減
入場者数	29723	35373	+ 5650
売上金	514,189	614,860	+ 100,671
支出金	724,927	321,470	- 403,475

## 水族館記事

- ◎ 4日、シマイシカニを1匹入手した。
- ◎ 6日、魚津水族館より同地名産のホタルイカの液浸標本/瓶の寄贈をうけた。
- ◎ 10日よりエビ網漁業が開始された。イセエビを始めセミエビ、ゾオリエビ、貝、カニ、ウニ、ヤドカリ等エビあみのおみやげが豊富に入るようになった。
- ◎ 13日、近大養魚場よりハマチ3匹、コイカ2匹の寄贈をうけたが、16日には、いずれも死亡した。
- ◎ 27日、巨大なアナゴ1匹、エビスダイ1匹、ツバクロエイ1匹を入手した。エビスダイは先月以前からいたものが死んだところだったので、この上ない贈り物といえよう。この四月にも代物が1月も経ない内に入った同

じょうな例もあって(P. 7参照)、不思議な暗合である。

- ◎ 27~30日 アオリイカが続いて入り、現在 No. 26 の水槽に 8 匹が遊戈している。
- ◎ 当館の援助によって完成した蒲原稔治博士著「原色日本魚類図鑑」1部が出版元の保育社の御好意により寄贈された。
- ◎ シマイエエビ (*Panulirus penicillatus*) の剥製標本が見事に出来上り、標本室に他のエビ類と列べて展示された。

### 資 料

#### ◎ 11月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(24)	10	8	6
気 温 (C)	$\frac{12.0-16.8}{14.8}$	$\frac{12.8-16.0}{14.5}$	$\frac{13.0-16.7}{14.9}$
水 温 (C)	$\frac{18.2-20.5}{19.5}$	$\frac{17.8-18.8}{18.4}$	$\frac{17.3-19.0}{18.0}$
比 重	$\frac{23.5-25.0}{24.4}$	$\frac{24.7-25.3}{25.0}$	$\frac{24.6-25.0}{24.8}$

但し { 気温は南水槽室  
水温 } は No. 25 水槽で 10 時に測定  
比重

### 来 訪 録

11月18日 文部省管理局長 小林行雄氏来館。

昭和30年12月3日 発行 (No. 39)

編集兼 内 海 富 士 夫  
発行人

発行所 瀬戸臨海実験所振興會  
和歌山縣・白浜町  
瀬戸臨海実験所内  
(電話 白浜温泉515)